

マルチオミクスによる大腸がんの代謝解明

曾我朋義

慶應義塾大学先端生命科学研究
所教授

(世話人：水沼 正樹准教授

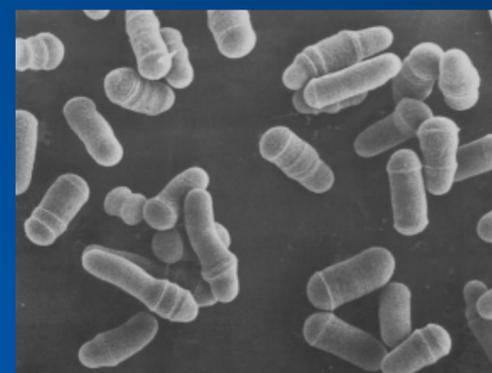
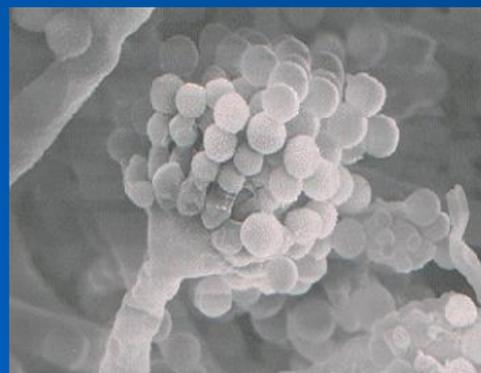
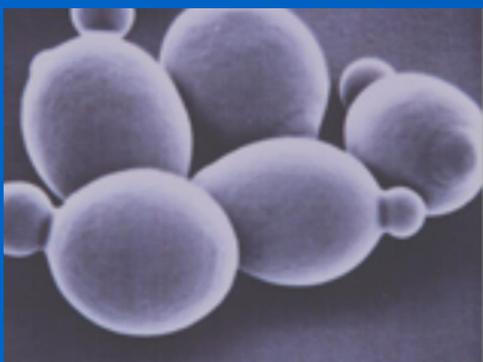
大学院先端物質科学研究科
分子生命機能科学専攻)

《概要》

ほとんどのがんは代謝を解糖系にシフトしてATPのみならず、核酸、タンパク質、脂質などの生体高分子の前駆体を生産する。

このがん細胞特異的な代謝は、ワールブルグ効果として名高い。近年、新たながん細胞特異的な代謝経路も見つかっており、これらは治療標的としても注目されている。しかし、どのような機序でがん細胞が代謝をリプログラミングするかについては不明である。

我々は、メタボローム、トランスクリプトーム、次世代シーケンサ解析などを用いて、大腸がん患者から採取したがん組織と正常組織の生体内分子を網羅的に測定し、がんの代謝変化は、がん化の初期の段階で起きていることを見出した。大腸がんの代謝制御機構の最新の知見について議論したい。



※本セミナーは5研究科共同セミナーです。

開催日時：平成 28 年 8 月 24 日(水) 15:00-16:00

会場：広島大学先端科学総合研究棟 3F 302S 会議室

お問い合わせ先

○広島大学大学院先端物質科学研究科分子生命機能科学専攻

・広島大学健康長寿研究拠点：河本 正次（代表）， 事務担当：松本

連絡先： E-mail tomako@hiroshima-u.ac.jp TEL 082-424-7867